

USテクノロジー・イノベーターズ・ファンド USテクノロジー・イノベーターズ・ファンド（為替ヘッジあり）



第1期決算および分配金のお支払いについて

平素より、「USテクノロジー・イノベーターズ・ファンド」および、「USテクノロジー・イノベーターズ・ファンド（為替ヘッジあり）」（以下、当ファンド）をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当ファンドは2017年2月27日に第1期決算を迎え、分配を行いましたので、分配状況について、足元の市場動向や今後の見通し等と併せてご報告いたします。

※以下、「USテクノロジー・イノベーターズ・ファンド」を（為替ヘッジなし）、「USテクノロジー・イノベーターズ・ファンド（為替ヘッジあり）」を（為替ヘッジあり）と呼ぶことがあります。

分配実績（1万口当たり、税引前）

第1期決算（2017年2月27日）の分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案し、（為替ヘッジなし）は430円、（為替ヘッジあり）は340円（いずれも1万口当たり、税引前）といたしました。分配金支払い後の基準価額は13,988円（為替ヘッジなし）、11,235円（為替ヘッジあり）となりました。

	第1期（2017年2月27日）	
	分配金 （対設定時基準価額比率）	騰落率 （税引前分配金再投資ベース）
（為替ヘッジなし）	430円 (4.3%)	44.2%
（為替ヘッジあり）	340円 (3.4%)	15.8%

（注1）「対設定時基準価額比率」は、「当期分配金」（税引前）の設定時基準価額（10,000円）に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

（注2）騰落率は税引前分配金再投資基準価額を基に算出したものであり、実際の投資家利回りとは異なります。

分配方針

- 分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。
- 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。

基準価額の推移

（為替ヘッジなし）



（為替ヘッジあり）



（注1）基準価額、税引前分配金再投資基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後です。

（注2）税引前分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額とは異なります。

※ 上記は過去の実績であり、将来の運用成果および分配を保証するものではありません。分配金額は委託会社が分配方針に基づき基準価額水準や市況動向等を勘案して決定します。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

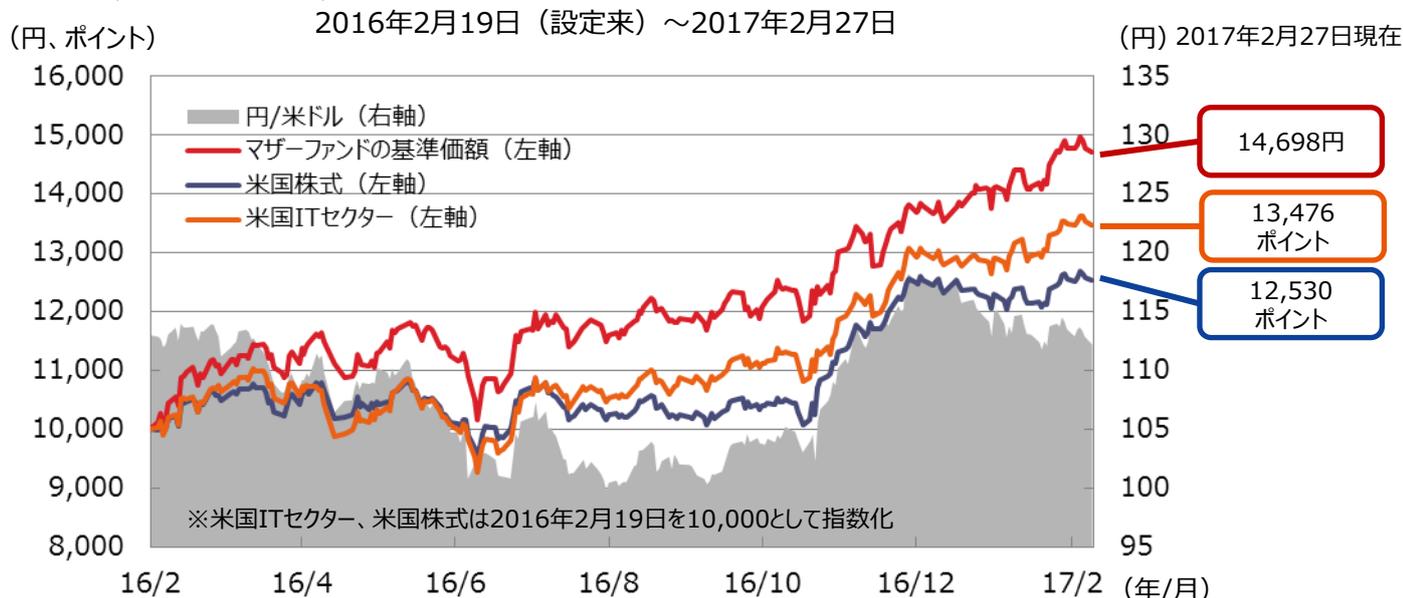
※ ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは6ページをご覧ください。

パフォーマンスは米国ITセクターよりも優位

当ファンドのマザーファンドは、設定日（2016年2月19日）以降、米国ITセクターを約12%、米国株式を約22%（ともに円ベース）程度上回るパフォーマンスとなっています。

（なお、当ファンドの運用においては、ベンチマーク・参考指数等を設けていません。）

＜当ファンドのマザーファンドと米国の株価指数等のパフォーマンスの推移（円ベース）＞



(注1) マザーファンドの基準価額は1万口当たり、信託報酬はかかりません。

(注2) 米国株式はS&P500種指数（配当込み、円換算値）、米国ITセクターはMSCI USA情報技術（配当込み、円換算値）。

(注3) マザーファンドの基準価額の算出時における外貨建て資産の円換算には、基準価額算出日前日（休日の場合はその直近の最終取引日）の株価と、基準価額算出日の為替レートを使用しています。そのため、上記グラフの米国ITセクターおよび米国株式については、この計算方法に沿って、基準価額算出日前日の各指数値と、基準価額算出日当日の為替レートから円換算値を算出し指数化しています。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

※上記は過去の実績であり、当ファンドの将来の運用成果や今後の市場環境等を示唆あるいは保証するものではありません。

※ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは6ページをご覧ください。

市場見通しと今後の運用方針

トランプ新政権が掲げる減税、規制緩和、景気刺激策が企業業績の拡大をもたらすと期待がある一方で、新政権が実際に行う政策がより企業寄りの政策となるのか、それともポピュリスト（大衆迎合主義）的なものとなるのかという疑問が市場のボラティリティ（価格変動性）の上昇を引き起こしているようです。実際、トランプ政権の保護貿易的な政策による悪影響が懸念される中国において、テクノロジー企業の一部に下落圧力が高まっていますが、中国国内での潜在的な成長力を考慮した場合、過剰反応しているように映ります。当ファンドにおいて注目するテーマや保有銘柄については、外部環境に影響されず独自の成長が可能であり、トランプ政権の行う政治や経済政策の悪影響を受けにくいものと考えます。

ポートフォリオにおいては、引き続きハードウェア関連の企業の保有を控えています。この分野が一時的に良好な結果をもたらす可能性もありますが、現在、スマートフォンから大きな収益を得ている有力企業が多く、業界全体は成熟化し、持続的な成長は困難であると判断しています。一方でポートフォリオにも多く組み入れているインターネット関連の企業については、長期にわたり持続的な成長が可能で企業が多く存在しており、この分野において、売上成長とフリーキャッシュフローの持続的な創出が期待でき、かつ魅力的なバリュエーション（株価評価）で取引されている質の高いインターネット企業の発掘に注力しています。

このような魅力的なテーマに注目しつつ、株価の上昇により割安感の低下した一部銘柄の利益を確定し、より魅力的な銘柄へ入れ替えを実施することで、情報技術及びその関連企業の中から、革新的な技術・サービスの開発、進化、活用等により高い成長が期待できる企業への投資を継続いたします。

(出所) T.ロウ・プライス・アソシエイツ・インクのコメントを基に三井住友アセットマネジメント作成

※上記の市場見通し、今後の運用方針は当資料作成時点のものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆あるいは保証するものではありません。今後、予告なく変更する場合があります。

ファンドの特色

※ 各ファンドの略称として、それぞれ以下のようにいことがあります。

- USテクノロジー・イノベーターズ・ファンド : (為替ヘッジなし)
 USテクノロジー・イノベーターズ・ファンド (為替ヘッジあり) : (為替ヘッジあり)

- USテクノロジー・イノベーターズ・マザーファンド (以下、「マザーファンド」といいます。) への投資を通じて、主として米国の上場株式 * 1の中から、情報技術の開発、進化、活用により高い成長が期待される企業の株式に投資を行います。
 - 主として情報技術関連事業 * 2を行う企業 (以下、「情報技術関連企業」といいます。) の中から、革新的な技術・サービス等により高い成長が期待される企業の株式を厳選します。
 - ファミリーファンド方式により運用を行います。

* 1 上場株式には、不動産投資信託 (REIT) も含みます。
 * 2 ソフトウェア、ハードウェア、半導体、通信機器、情報処理サービス、通信サービス、電子商取引、メディア等に関連する事業にとどまらず、情報技術を活用した新しい事業も含みます。
- 情報技術関連企業への投資に強みをもつT.ロウ・プライス・アソシエイツ・インクが実質的な運用を行います。
 - マザーファンドの運用にあたっては、T.ロウ・プライス・アソシエイツ・インクに運用の指図に関する権限の一部を委託します。同社は、米国のT.ロウ・プライス・グループ (以下、同グループを「T.ロウ・プライス」といいます。) 傘下の運用会社であり、T.ロウ・プライスの調査能力を活用して運用を行います。
- 対円での為替ヘッジの有無により、(為替ヘッジなし) と (為替ヘッジあり) の2つのファンドからご選択いただけます。
 - (為替ヘッジなし)
実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
 - (為替ヘッジあり)
実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを活用し、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。

※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

ファンドは、主に海外の株式を投資対象としています (マザーファンドを通じて間接的に投資する場合を含みます。)。ファンドの基準価額は、組み入れた株式の値動き、当該発行者の経営・財務状況の変化、為替相場の変動等の影響により上下します。**基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。

運用の結果としてファンドに生じた**利益および損失は、すべて受益者に帰属**します。したがって、ファンドは**預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく**、一定の投資成果を保証するものでもありません。ファンドの主要なリスクは、以下の通りです。

■ 株式市場リスク

内外の政治、経済、社会情勢等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況、これらに対する外部的評価の変化等によって変動し、ファンドの基準価額が下落する要因となります。特に、企業が倒産や大幅な業績悪化に陥った場合、当該企業の株式の価値が大きく下落し、基準価額が大きく下落する要因となります。

■ 信用リスク

ファンドが投資している有価証券や金融商品に債務不履行が発生あるいは懸念される場合に、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

投資リスク

■ 為替変動リスク

外貨建資産への投資は、円建資産に投資する場合の通常のリスクのほか、為替変動による影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落（円高）する場合、円ベースでの評価額は下落することがあります。為替の変動（円高）は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

（為替ヘッジあり）については実質外貨建資産に対し原則として対円での為替ヘッジを行うため、為替の変動による影響は限定的と考えられます（ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。）。

■ カントリーリスク

海外に投資を行う場合には、投資する有価証券の発行者に起因するリスクのほか、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化や混乱などによって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

■ 市場流動性リスク

ファンドの資金流出入に伴い、有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、必要な取引ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。
また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドは、特定の業種・テーマに絞った銘柄選定を行いますので、株式市場全体の動きとファンドの基準価額の動きが大きく異なることがあります。また、市場環境、金利および経済・法制度・金融面の諸情勢が、特定の業種・テーマに対して著しい影響を及ぼすことがあります。当該業種・テーマに属する銘柄は、これらの情勢等に対して同様の反応を示すことがあります。
- 投資資産の市場流動性が低下することにより投資資産の取引等が困難となった場合は、ファンドの換金申込みの受け付けを中止すること、および既に受け付けた換金申込みを取り消すことがあります。

お申込みメモ**購入単位**

販売会社または委託会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額となります。

ただし、累積投資契約に基づく収益分配金の再投資の場合は、各計算期末の基準価額となります。

購入代金

販売会社の指定の期日までに、指定の方法でお支払いください。

換金単位

販売会社または委託会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額となります。

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目以降にお支払いします。

信託期間

(為替ヘッジなし)

2016年2月19日から2026年2月26日まで

(為替ヘッジあり)

2016年11月18日から2026年2月26日まで

決算日

毎年2月26日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配を行います。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

課税上は株式投資信託として取り扱われます。

公募株式投資信託は税制上、少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」、未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA（ニーサ）」の適用対象です。ただし、販売会社によっては当ファンドをNISA、ジュニアNISAでの取扱い対象としない場合があります。

詳しくは販売会社にお問い合わせください。

配当控除の適用はありません。

※上記は作成基準日現在の情報をもとに記載しています。税法が改正された場合等には、変更される場合があります。

お申込不可日

ニューヨークの取引所または銀行の休業日のいずれかに当たる場合には、購入、換金の申込みを受け付けません。

スイッチング

販売会社によっては、（為替ヘッジなし）および（為替ヘッジあり）の間でスイッチングを取り扱う場合があります。また、販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に3.24% (税抜き3.00%) を上限として、販売会社がそれぞれ別に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額
ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に年1.8684% (税抜き1.73%) を上限とする率を乗じた額です。
信託報酬率は純資産総額に応じて逡減します。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。
- その他の費用・手数料
上記のほか、ファンドの監査費用や有価証券の売買時の手数料、資産を外国で保管する場合の費用等（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）が信託財産から支払われます。これらの費用に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用状況により変化するため、あらかじめ、その金額等を具体的に記載することはできません。
- ※ ファンドの費用（手数料等）の合計額、その上限額、計算方法等は、投資者の保有期間に応じて異なる等の理由により、あらかじめ具体的に記載することはできません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	<p>ファンドの運用の指図等を行います。</p> <p>三井住友アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号</p> <p>加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会</p> <p>ホームページ：http://www.smam-jp.com</p> <p>電話番号：0120-88-2976 [受付時間] 営業日の午前9時～午後5時</p>
受託会社	<p>ファンドの財産の保管および管理等を行います。</p> <p>株式会社りそな銀行</p>
販売会社	<p>ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。</p>
投資顧問会社	<p>ファンドの運用指図に関する権限の一部の委託を受け、投資信託財産の運用を行います。</p> <p>T.ロウ・プライス・アソシエイツ・インク</p>

販売会社		登録番号	日本証券業協会	金融商品取引業協会 一般社団法人 第二種	日本投資顧問業協会 一般社団法人	金融先物取引業協会 一般社団法人	投資信託協会 一般社団法人	備考
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第67号	○			○		※1
SMB C日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○		
SMB Cフレンド証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第40号	○	○				
株式会社三井住友銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第54号	○	○		○		※1

備考欄について

※1：「USテクノロジー・イノベーターズ・ファンド」のみのお取扱いとなります。

【重要な注意事項】

- 当資料は、三井住友アセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に関し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友アセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡する最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。
- 当資料に評価機関等の評価が掲載されている場合、当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。